

**第3期八幡平市小中学校適正配置計画
(令和4年度～令和13年度)**

令和5年3月

八幡平市教育委員会

目 次

はじめに	1
I 適正配置計画の基本方針について	2
1 計画の目的	2
2 計画の方針	2
II 市内小中学校の現状について	3
1 小学校	3
2 中学校	6
3 学校施設の状況	9
III 適正規模・適正配置の方針について	10
1 小中学校の小規模化に係る課題	10
2 適正化の基本的な考え方	10
3 適正化の基準	11
4 具体的な提案	12
5 計画の期間	15
参考資料	16

別冊 令和元年度小中学校再編（統廃合）に関する保護者アンケート集計結果

はじめに

子供たちのために良好な学校環境を整えることは、私たち大人の責務です。どのような環境で学ぶかということは、子供たちの成長に大きな影響を与えます。特に、義務教育9年間で過ごす学校の環境は、子供たちが集団生活を通して人間性を育てたり、仲間と切磋琢磨しながら基礎学力や運動能力を伸ばしたりする上で、大きな意味を持つと考えられます。

八幡平市教育委員会では、市の将来を担う子供たちのより良い教育環境を整備し、充実した教育を実現させるため、児童生徒数の減少が進む現状を受けて、平成21年度から平成24年度までの4カ年を期間とした「第1期八幡平市小中学校適正配置指針」、平成27年度から平成31年度までの5カ年を期間とした「第2期八幡平市小中学校適正配置計画」を策定し、取り組みを進めてまいりました。第1期適正配置指針により、平成22年に渋川小学校が、平成25年には東大更小学校が、それぞれ大更小学校と統合されました。また、同じく平成25年に田山中学校が安代中学校に統合されました。

その後、教育を取り巻く環境は一層変化し、児童生徒数の減少による学校の小規模化が顕著になる一方、学校施設の老朽化は深刻の度を深めております。このような状況を踏まえ、小中学校の適正規模・適正配置について、改めて長期的な視点による検討が必要となつてまいりました。

教育委員会では、小中学校の適正配置や統廃合に関する保護者の意向を把握すべく、令和元年度に「小中学校の再編（統廃合）に関する保護者アンケート」を実施いたしました。

そこでいただいたご意見を具体的な学校環境整備につなげるため、令和3年9月に地域住民、教育関係者、学識経験者等を構成員とする「八幡平市小中学校適正配置検討委員会」を設置いたしました。検討委員会では、令和3年9月から令和4年9月まで、小中学校の適正規模・適正配置の進め方について計5回に及ぶ検討を重ねてまいりました。

その検討結果が、去る令和4年10月に検討委員会委員長から教育委員会あてに「第3期八幡平市小中学校適正配置計画（案）」として報告されました。

教育委員会では、令和4年12月から令和5年1月にかけて、市内小学校10校及び中学校4校の全14校を会場に住民説明会を開催し、地域住民の皆様、保護者の皆様に適正配置計画（案）について説明いたしました。その際にいただいたご意見を取り入れ、ここに「第3期八幡平市小中学校適正配置計画」としてまとめさせていただきました。

I 適正配置計画の基本方針について

1 計画の目的

全国的に少子化が進行する中、本市においても児童生徒数が減少していることに伴い、小学校5校で複式学級が編成されています。同様に少子化の波は中学校にも及んでおり、多くの中学校が1学年1学級の編成となり、今後一層小規模化が進んでいく見通しです。そのことにより児童生徒の社会性の育成をはじめ、多様な学習活動、集団活動の展開、部活動等の学校運営に支障をきたすことが懸念されています。

また学校施設については、小中学校14校のうち築年数が30年以上の施設は11校となり、特に西根中学校及び西根第一中学校の2校に関しては、築年数55年以上となっており、著しく老朽化が進んでいます。

こうした現状を踏まえ、小規模化によって生じる教育上又は学校運営上の諸問題を解決するとともに、教育環境の整備及び教育の質の向上を図るため、市内小中学校の規模と配置の適正化について計画します。

2 計画の方針

小中学校の適正規模・適正配置を計画するにあたり、学校が地域コミュニティの核としての性格を有していることに十分配慮するとともに、将来の地域を担う次世代を育成する場としての公共的性格を持つことにも、十分考慮する必要があります。

そこで、計画案についての住民説明会を行い、保護者、地域住民の意見を取り入れた計画とします。

II 市内小中学校の現状について

1 小学校

(1) 学校数及び学級数

小学校数については、八幡平市が誕生した平成17年度は12校でしたが、平成22年度に渋川小学校を、平成25年度に東大更小学校をそれぞれ大更小学校に統合したことによって、10校となっています。(表1-3参照)

学級数については、平成17年度は79学級でしたが、令和4年度は56学級となっています。複式学級が増えており、第2期八幡平市小中学校適正配置計画策定時の平成27年度には平笠小学校及び田山小学校の2校が複式学級を有していましたが、令和4年度では3校増え、田頭小学校、平笠小学校、寺田小学校、柏台小学校及び田山小学校の5校に複式学級があります。

また、住民基本台帳から推測した児童数によると、令和10年度には新たに寄木小学校を加えた6校に複式学級が生じ、このうち田頭小学校を除く5校においては、完全複式(全学年が複式学級)になると見込まれます。(表1-2、1-3参照)

(2) 児童数の推移と予測

児童数については、平成27年度では1,071人でしたが、令和4年度で905人となり(表1-1、1-3参照)、減少率は約15.5%です。

また、住民基本台帳から推測した令和10年度の児童数は総数で703人となり、令和4年度から約22.3%減少する見込みです。中には減少率の予測が60%を超える小学校も存在します。(参考資料2~5参照)

表1-1：児童数(単位：人)と学級数の推移

年 度	H27	R 4	R10 (予測)	H27⇒R 4	R 4⇒R10
児童数	1,071	905	703	△15.5%	△22.3%
学級数	64	56	49	△12.5%	△12.5%

※ 年号を簡略化し、「平成〇年度」を「H〇」、「令和〇年度」を「R〇」として表示します(図表については、以下同じ。)

表1-2：複式学級を有する小学校

年 度	H27	R 4	R10 (予測)
小学校名	平笠小・田山小	田頭小・平笠小・寺田小・ 柏台小・田山小	田頭小・平笠小・寺田小・ 寄木小・柏台小・田山小

表 1 - 3 : 小学校別児童数 (単位: 人)、普通学級数の予測

小学校名	項目	R 4 児童数・学級数							R 5 以降の児童数の見込み (新入生数)					
		1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	合計	R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	R 10
大更	児童数	66	57	46	69	63	57	358	362 (61)	349 (50)	337 (57)	347 (56)	335 (45)	327 (58)
	学級数	2	2	2	2	2	2	12	12	12	12	12	12	12
田頭	児童数	9	9	2	11	10	7	48	46 (5)	43 (7)	38 (6)	41 (5)	42 (10)	37 (4)
	学級数	1	1	<u>1</u>		1	1	<u>5</u>	<u>5</u>	<u>4</u>	<u>4</u>	<u>4</u>	<u>4</u>	<u>4</u>
平笠	児童数	5	4	10	3	9	5	36	38 (7)	36 (7)	36 (3)	29 (3)	26 (1)	22 (1)
	学級数	1	1	<u>1</u>		<u>1</u>		<u>4</u>	<u>4</u>	<u>4</u>	<u>4</u>	<u>3</u>	<u>3</u>	<u>3</u>
平舘	児童数	14	24	13	15	9	21	96	91 (16)	99 (17)	107 (23)	110 (16)	95 (9)	95 (14)
	学級数	1	1	1	1	1	1	6	6	6	6	6	6	6
寺田	児童数	7	11	8	4	9	15	54	46 (7)	44 (7)	44 (4)	39 (3)	32 (4)	26 (1)
	学級数	1	1	<u>1</u>		1	1	<u>5</u>	<u>5</u>	<u>4</u>	<u>5</u>	<u>4</u>	<u>3</u>	<u>3</u>
松野	児童数	13	10	13	10	21	18	85	83 (16)	72 (10)	71 (9)	68 (10)	64 (6)	58 (7)
	学級数	1	1	1	1	1	1	6	6	6	6	6	6	6
寄木	児童数	14	11	14	16	11	15	81	71 (5)	66 (6)	55 (5)	49 (8)	40 (2)	31 (5)
	学級数	1	1	1	1	1	1	6	6	6	<u>5</u>	<u>5</u>	<u>4</u>	<u>3</u>
柏台	児童数	5	2	8	9	5	8	37	31 (2)	32 (6)	25 (2)	19 (2)	19 (2)	16 (2)
	学級数	<u>1</u>		<u>1</u>		<u>1</u>		<u>3</u>	<u>3</u>	<u>3</u>	<u>3</u>	<u>3</u>	<u>3</u>	<u>3</u>
安代	児童数	15	13	16	16	17	9	86	95 (18)	94 (16)	90 (12)	80 (6)	80 (13)	74 (9)
	学級数	1	1	1	1	1	1	6	6	6	6	6	6	6
田山	児童数	3	1	10	1	5	4	24	23 (3)	21 (3)	22 (2)	16 (4)	17 (2)	17 (3)
	学級数	<u>1</u>		<u>1</u>		<u>1</u>		<u>3</u>	<u>3</u>	<u>3</u>	<u>3</u>	<u>3</u>	<u>3</u>	<u>3</u>
合計	児童数	151	142	140	154	159	159	905	886 (140)	856 (129)	825 (123)	798 (113)	750 (94)	703 (104)
	学級数							56	56	54	54	52	50	49

- ※ R 4 は 5 月 1 日 現在の実績値、R 5 以降は住民基本台帳による推計値です。
- ※ 特別支援学級は年度によって学級数が大きく変動するため、集計から除いています。
- ※ 学級数のアンダーラインは複式学級を示しています。

図1：児童数の推移と予測

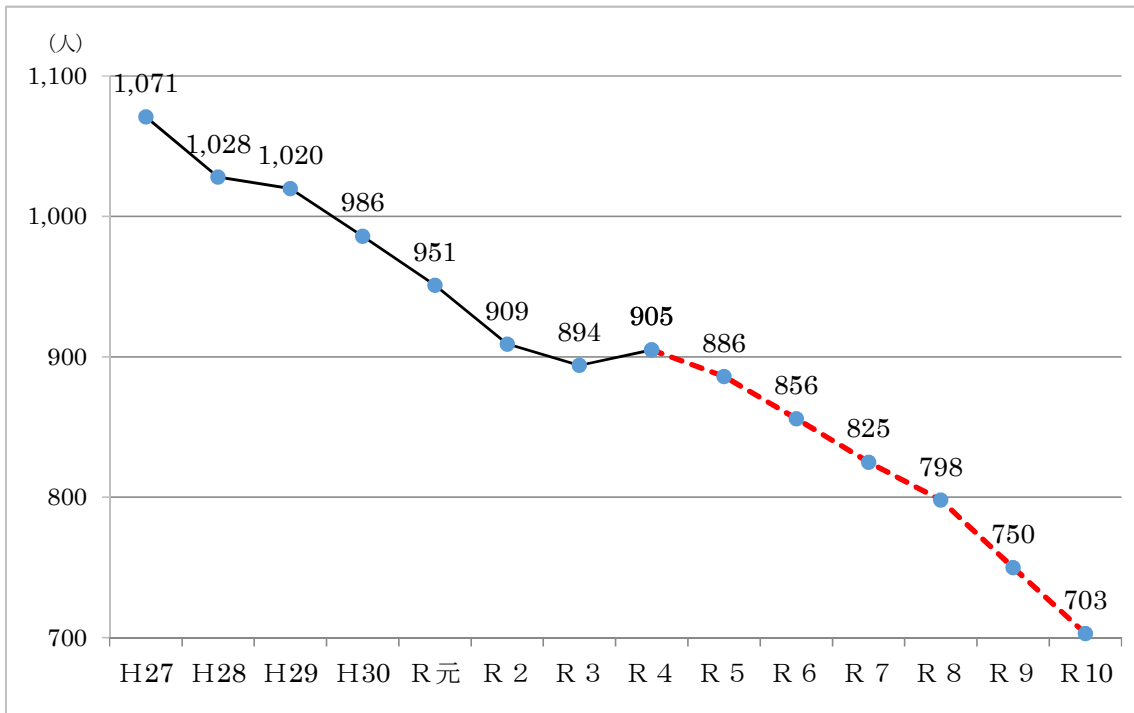
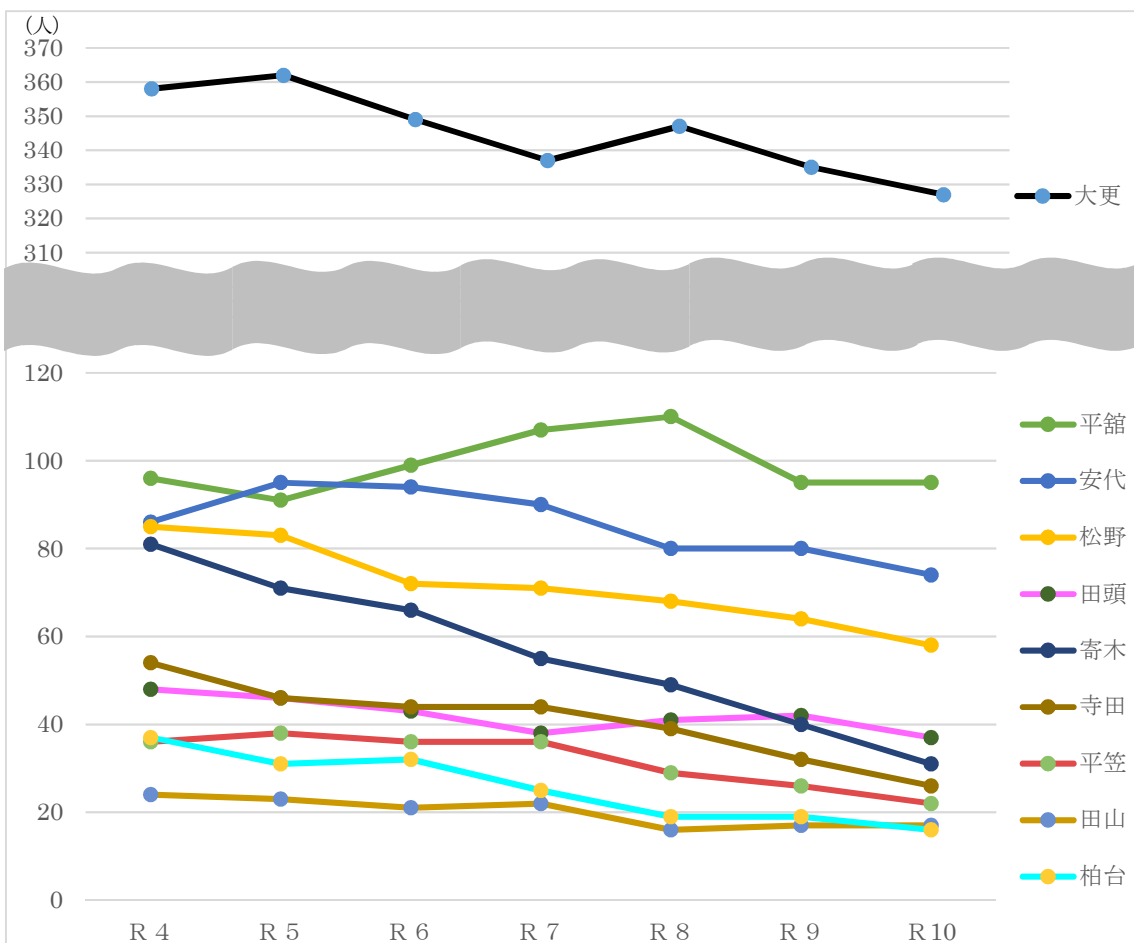


図2：小学校別児童数の予測



2 中学校

(1) 学校数及び学級数

中学校数については、八幡平市が誕生した平成17年度には5校でしたが、平成25年度に田山中学校と安代中学校とを統合したことにより、現在は4校となっています。

学級数については、第2期八幡平市小中学校適正配置計画策定時の平成27年度には安代中学校のみが1学年1学級でしたが、令和4年度は西根中学校を除く3校が1学年1学級となっています。

また、住民基本台帳から推測した生徒数によると令和10年度は、西根中学校が1学級減で、他の3中学校は令和4年度と同様の学級数が見込まれます。なお、中学校においては、令和10年度までに複式学級は生じない見込みです。

(表2-2参照)

(2) 生徒数の推移と予測

生徒数については、平成27年度で総数624人でしたが、令和4年度には462人となり約26%減少しています。

また、住民基本台帳から推測した令和10年度の生徒数は433人で、令和4年度から約6.3%減少すると見込まれています。(表2-1、2-2参照)

表2-1：生徒数と学級数の推移

年 度	H27	R 4	R 10 (予測)	H27⇒R 4	R 4⇒R10
生徒数	624	462	433	△26.0%	△6.3%
学級数	22	18	16	△18.2%	△11.1%

表 2-2 : 中学校別生徒数・普通学級数の予測

中学校名	項目	R 4 生徒数・学級数				R 5 以降の生徒数の見込み (新入生数)					
		1 年	2 年	3 年	合計	R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	R 10
西 根	生徒数	75	72	87	234	216 (69)	226 (82)	234 (83)	223 (58)	211 (70)	208 (80)
	学級数	3	3	3	9	8	8	8	8	7	7
西根第一	生徒数	20	34	24	78	90 (36)	74 (18)	73 (19)	58 (21)	75 (35)	77 (21)
	学級数	1	1	1	3	3	3	3	3	3	3
松 尾	生徒数	34	25	30	89	100 (41)	112 (37)	113 (35)	107 (35)	93 (23)	90 (32)
	学級数	1	1	1	3	4	5	5	4	3	3
安 代	生徒数	17	20	24	61	50 (13)	52 (22)	52 (17)	65 (26)	57 (14)	58 (18)
	学級数	1	1	1	3	3	3	3	3	3	3
合計	生徒数	146	151	165	462	456 (159)	464 (159)	472 (154)	453 (140)	436 (142)	433 (151)
	学級数	6	6	6	18	18	19	19	18	16	16

※ R 4 は 5 月 1 日 現 在 の 実 績 値、R 5 以 降 は 住 民 基 本 台 帳 に よ る 推 計 値 で す。

※ 特 別 支 援 学 級 は 年 度 に よ っ て 学 級 数 が 大 き く 変 動 す る た め、集 計 か ら 除 い て い ま す。

図 3 : 生徒数の推移と予測

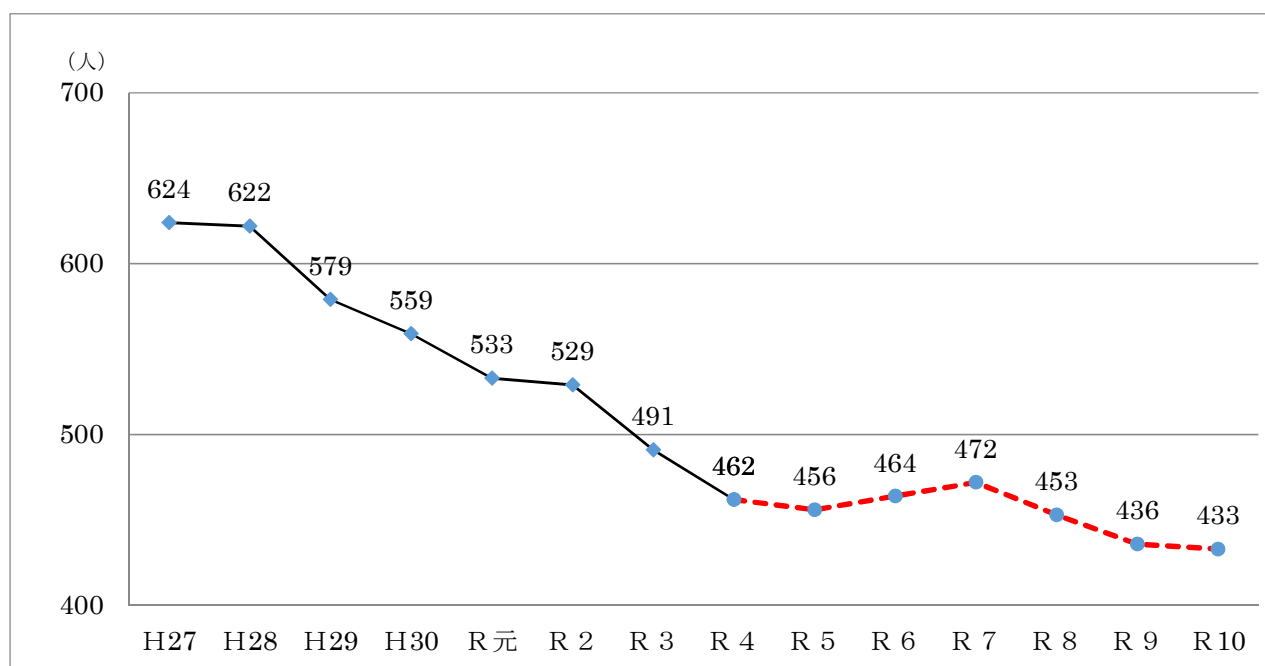
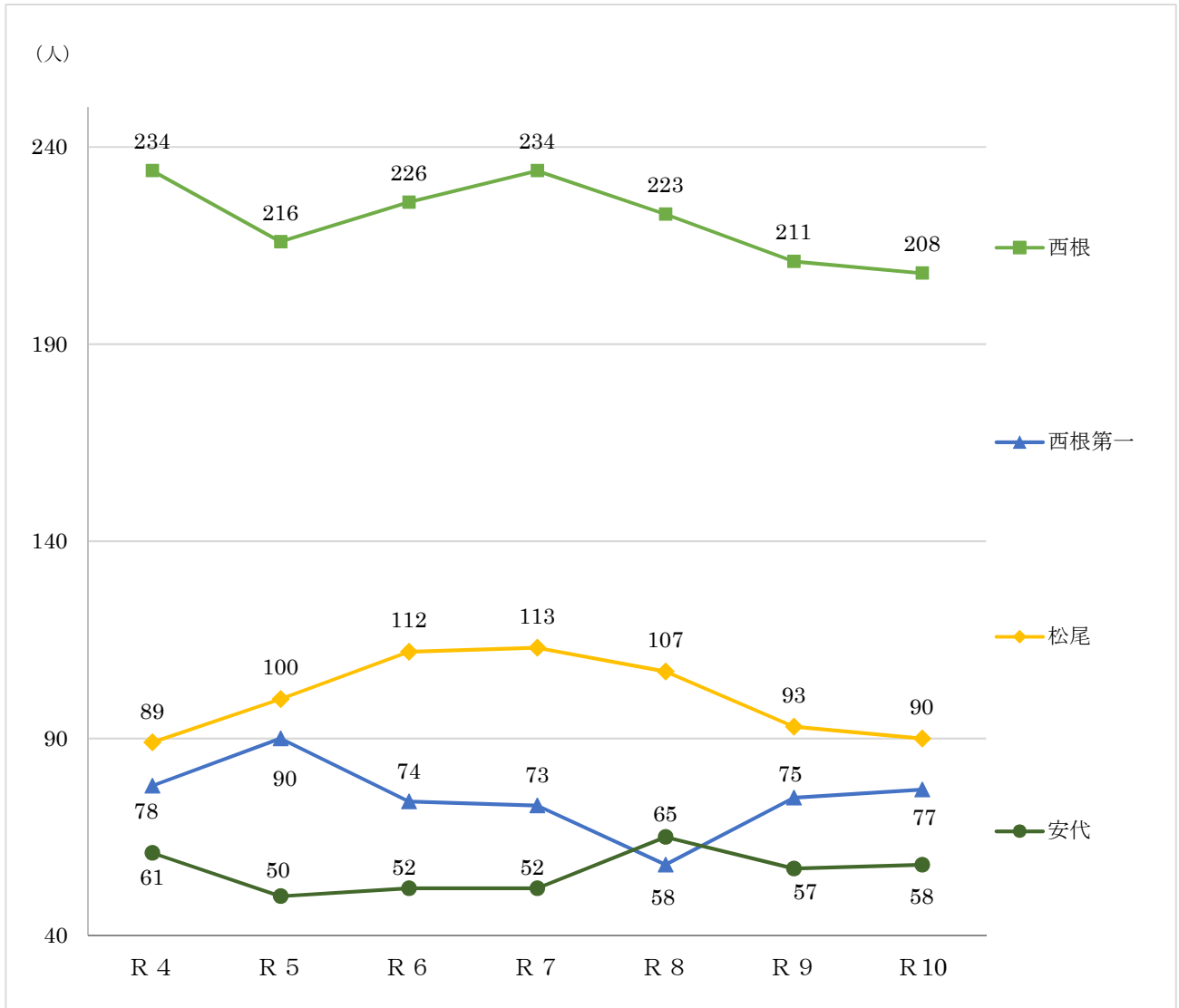


図4：中学校別生徒数の予測



3 学校施設の状況

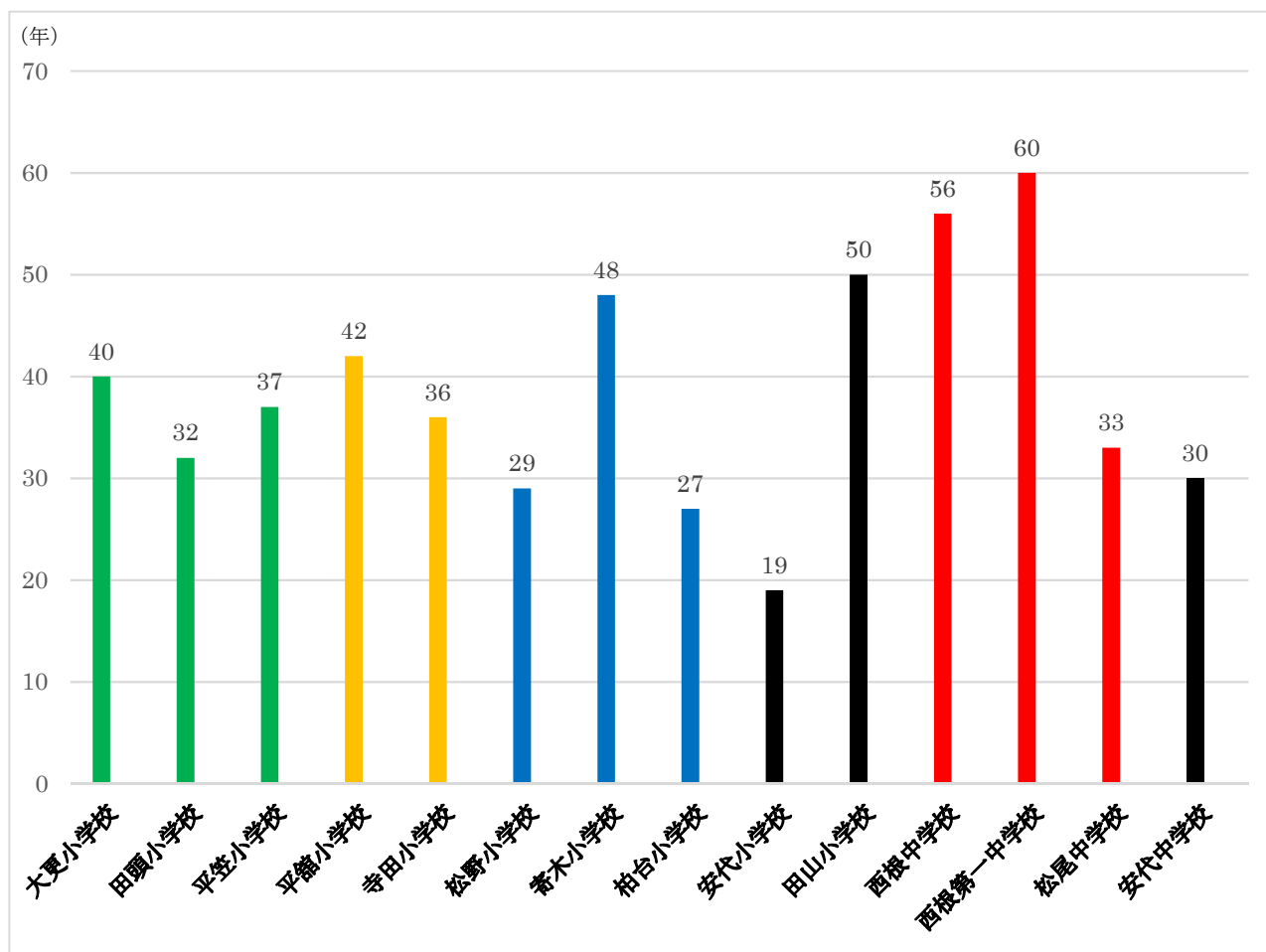
学校施設のうち、本市における校舎の建築経過年数（令和3年度末現在。以下同じ）をみますと、小学校では経過年数が長い順に田山小学校が50年、寄木小学校が48年、平館小学校が42年、大更小学校が40年、平笠小学校が37年、寺田小学校が36年、田頭小学校が32年であり、30年以上経過の小学校が10校中7校という現状です。

同様に中学校では、西根第一中学校が60年、西根中学校が56年で2校が突出しており、以下松尾中学校が33年、安代中学校が30年となっています。（図5参照）

これまでに大規模改造や耐震補強等、様々な整備は行ってきましたが、令和2年度に行った劣化状況調査では、西根第一中学校及び西根中学校において、コンクリート圧縮強度の数値が基準を下回る結果が出ており、安全性確保のためにもさらに詳しい調査が必要となることが予想されます。

このように、学校施設の老朽化が進行していることから、施設整備の経費が増加することが予想されます。また、建築当時との学習環境の違いとしてICT環境の整備や特別支援学級の増加、省エネルギー化やバリアフリー化などへの対応、災害時の避難所施設としての機能強化が求められています。長期的な視点を持って、統廃合、長寿命化等に計画的に取り組んでいく必要があります。

図5：校舎建築経過年数



Ⅲ 適正規模・適正配置の方針について

1 小中学校の小規模化に係る課題

(1) 教育的観点からの課題

前述でも示したとおり、令和10年度までに小学校の児童数の減少率は約22.3%、中学校の生徒数の減少率は約6.3%となる見込みであり、一層少子化が進むことが見込まれています。

小規模校は、一般的に教員1人当たりの担当児童生徒数が少ないため、児童生徒の一人一人に目が届きやすく、きめ細やかな指導が行いやすいなどのメリットがあります。また、児童生徒の人間関係の結びつきが強く、集団への所属感や他を思いやる気持ちが養われることもメリットです。さらには、学校行事等で様々な活躍の場が多く与えられ、自己有用感が持てることも良さとして挙げられます。

その一方で、児童生徒数が少ないことによるデメリットとして、グループ学習に制約が生じたり、運動会や音楽活動等の学校行事、部活動といった一定の人数を必要とする活動が成り立ちにくくなったりするなど、児童生徒の集団活動の機会が損なわれ、切磋琢磨する機会が不足しがちになります。また、教職員数が少ないことのデメリットとして、非常勤講師や免許外指導の教科が生じることがあります。さらに著しく教職員数が少なくなる場合には、副校長や養護教諭、事務職員などの専門職が配置されないことがあります。この場合、他の教職員が自分の業務に加えてこれらの業務を担うなど、教職員一人一人の業務量が増加し、十分な指導体制をとることが難しくなることがあります。

(2) 地域コミュニティの観点からの課題

令和2年度から市内小中学校の全てがコミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）を導入し、地域との連携によって教育活動の質を高め、環境を整えながら地域とともにある学校の実現を図っています。

このような中で、児童生徒の減少等に伴い学校の統廃合が行われた場合、地域コミュニティへ与える影響として学校が無くなることによる地域全体の衰退のおそれや、学校が行ってきた地域の伝統芸能の継承等が困難となることが懸念されます。

2 適正化の基本的な考え方

(1) 学習・生活環境の充実化

様々な人々との関わりを持つ中で、児童生徒が豊かな人間性、社会性、創造性を身に付けるためには、一定数の人数や学級数が必要となります。また、学習や生活規律等の定着を図るためには、教員による発達段階に応じたきめ細やかな指導が必要となります。

そのため、複式学級を解消し、過度の小規模化を回避することが、子供たちの成長発達にとって望ましい環境です。

(2) 指導体制の充実化

複式学級や過度の小規模化は、教員にとって負担が大きく、結果として児童生徒に対する指導の阻害要因となります。そのため、教員数の過少化は避け、指導体制を充実させることが必要です。

指導体制の充実は、教員の校務負担の減少だけではなく、校内における教員相互の研修機会の増加につながり、資質及び指導力の向上に結び付くことが期待されます。

(3) 地域との連携強化

当市の次代を担う人づくりのためにも、学校と地域がパートナーとして、連携、協働による取り組みを強化する必要があります。その取り組みを支える仕組みとして、学校運営協議会があります。学校と地域、保護者が目指すべき学校像や、育てたい子供像を共有しながら経営を進めるコミュニティ・スクールとして、地域とともにある学校の実現を推進していきます。

3 適正化の基準

(1) 適正規模の基準

国では学級編成の標準規模を小中学校とも1校につき、12学級以上18学級以下、学級定員は小学1年生から3年生までは35人、4年生から中学3年生までは40人と定めています。なお、小学校は令和7年度までに段階的に全学年の学級定員が35人となります。

また、岩手県では少人数指導との選択制による少人数学級（35人学級）を、小中学校全学年で推進しています。

当市では、地形上からくる人口分布、少人数学級であることに起因する子供1人当たりの負担、教育上の効果、教員の指導力を最大限発揮させることのできる児童生徒数を勘案し、適正な学級定員・学校規模を前計画と同様に次のとおりとします。

【小学校】 1学級20人を目処に6学級以上

【中学校】 1学級20人を目処に3学級以上

(2) 適正配置の基準

学校の適正な配置を維持するために、通学距離や時間が過大にならざるを得ない場合があります。児童生徒にとって長距離・長時間の通学は心身ともに負担になり、学校生活にも影響するおそれがあります。また、安全面の観点からも通学区の拡大による過度の長距離化は望ましいものではありません。

国が通学距離の基準を、小学校はおおむね4 km以内、中学校はおおむね6 km以内としていることから、当市でも、適正な通学距離や時間の基準を前計画と同様に次のとおりとします。

【小学校】 距離：おおむね4 km以内、時間：おおむね1時間以内

【中学校】 距離：おおむね6 km以内、時間：おおむね1時間以内

4 具体的な提案

(1) 学校適正化の計画案

将来の児童生徒数の推計をもとに、先に示した適正規模・適正配置の基準により、次のとおりとします。なお、計画の推進に当たっては、(2)から(6)までに配慮しながら進めていきます。

① 西根中学校、西根第一中学校及び松尾中学校の3校を優先して統合し、新設校を建設します。

1 3中学校の統合を優先する理由
(1) 深刻化する生徒数の減少に対応し統合により生徒数を確保することで、中学生として経験させたい様々な学習経験や活動体験の機会と場を保障する。 (2) 校舎等の老朽化に対応しつつ、生徒にとって安全で快適な学習環境を整備すると共に、ICT教育やバリアフリー化等の現代の課題に適応した教育環境を整える。
2 中学校統合のメリット
(1) 各教科において専門の教師の配置が可能になり、より質の高い指導を受けることができる。 (2) 生徒同士が切磋琢磨する機会を確保でき、互いに伸び合うことで授業の深まりとコミュニケーション能力の向上が期待できる。 (3) 複数の学級があることにより学級編成が行われ、交友関係など生徒指導上の課題にも柔軟に対応できるようになる。 (4) 部活動の選択肢も豊富になり、自分の希望する部に所属して思い切り活動することができる。 (5) 生徒数が確保できることで、学校行事や学年行事などで力強く創意工夫を凝らした取り組みをすることが可能となり、学校での活動が一層活性化する。
3 中学校統合を進める際の課題
(1) 通学距離が延びることによって、スクールバスを利用しなければならない等、通学方法の変更やその利便性を確保する必要がある。 (2) 多人数の中で生徒の行動に目が行き届かなくなることがないよう、きめ細やかな指導により、生徒一人一人の個性の伸長と自己実現を図っていく必要がある。 (3) 各中学校でこれまでに継承してきた地域行事や、伝統芸能の維持等に配慮する必要がある。

② 安代中学校を中心に、安代小学校及び田山小学校との小中一貫（小小連携・小中連携）教育を推進します。

- ・ 安代中学校と西根・松尾地区の中学校の統合は、通学距離を考えると実現は困難と思われます。
- ・ 安代小学校と田山小学校との統合については、両校の児童数の推移や社会情勢を注視しつつ、地域や保護者の声を聴きながら統合の可能性について検討していきます。
- ・ 安代地区3校については、小中一貫（小小連携・小中連携）教育を行うことにより統合とは別の形で教育環境の整備に努めます。

アンケート結果による保護者の要望（安代地区）

小学校の統合		
選 択 項 目	安代小学校区	田山小学校区
統合する方がよい	60%	26%
統合しない方がいい	18%	55%
どちらともいえない（その他）	22%	19%
中学校の統合		
選 択 項 目	安代中学校区	
統合する方がよい	27%	
統合しない方がいい	50%	
どちらともいえない（その他）	23%	

【安代地区で進める小中一貫教育について】

1 小中一貫教育を推進する理由
(1) 安代地区の3校が目指す子供像を共有し、義務教育9年間の見通しを持った教育活動を展開することにより、系統的、継続的な教育課程編成が可能となり、安代地区ならではの特色のある教育を実現できる。
(2) 少子化による児童生徒数の減少を相互に補い、小中学校の異年齢の交流や学び合いを通して、集団としての学習経験や活動体験を積むことにより、望ましい人間関係を形成することができる。
2 小中一貫教育で可能となる教育活動
(1) 中学校教員が、小学校への乗り入れ指導を行うことにより、中学校における学習への興味関心を高めると同時に、中学校進学への不安軽減（中1ギャップの解消）を図ることができる。
(2) 地域の特色を生かした教育活動（りんどう学習、森林学習等）を、9年間継続して効果的に実施することができる。
(3) 小中学校の教員が、児童生徒の個性や成育歴等を共有しながら指導に当たることにより、生徒指導上の事案や不登校対応等に指導効果が期待できる。
(4) 小中学校の教員が、互いの授業を見たり、共同で研修する機会を持ったりすることで指導力の向上が図られ、児童生徒の学力の定着・向上につながる。

③ 西根地区及び松尾地区の小学校の統合については、アンケート集計結果や住民説明会での要望等を踏まえ改めて検討します。

1 小規模・複式による少人数指導のメリット
(1) きめ細やかな指導により学力の定着に繋がっている。 (2) 人数が少ない分だけ上下の学年が親しく交われる。
2 地域と小学校とのつながり
(1) 小学校は地域の文化の中心であり、地域住民の交流の核として大きな存在意義を持っている。 (2) コミュニティ・スクールでは「地域とともにある学校」を目指して取り組んでいる。特に小学校は、地域からの厚い支援で経営が支えられており、現在の地域との良好な関係を大切にしていける必要がある。
3 将来的な小学校の統合
(1) エアコンの設置やICT環境の整備等教育環境が整っていることや、少人数指導の良さが見直されている現在、小学校の統合を急ぐ必要性が以前ほど高くないが、アンケート調査を実施するなどして保護者の最新のニーズを把握しながら方向性を定めていく。 (2) 少子化が進む中で、小学校の統合は避けられない課題であり、どのような組み合わせの統合が良いか、また統合校（新設校）の位置やあり方などについて、検討を進める。 (3) 統合を推進する際には、アンケート結果や第2期小中学校適正配置計画の具体的な統合案を踏まえた計画とし、計画的に住民説明会を開催して小学校統合の在り方について理解を広めていく。

※ 第2期小中学校適正配置計画の統合案

- 【小学校】・大更小学校、田頭小学校及び平笠小学校の統合
・平館小学校及び寺田小学校の統合
・松野小学校、寄木小学校及び柏台小学校の統合

(2) 学校適正配置の推進

学校適正配置計画の推進にあたっては、対象校の保護者や地域住民に対し十分な説明を行い、理解を得るように努めます。

また、学校の統合を実施する場合には、子供への心理的負担を軽減させるため、統合実施前に対象校同士の保護者や児童生徒の交流を行うなど、統合を円滑に進めるための工夫を行います。

(3) 統合推進組織の設置

学校やPTA、地域振興協議会など、統合対象校の関係者で構成する統合推進組織を設置し、校名や校歌、校章など、統合に必要な事項について協議を行います。

(4) 各種関連施策との連携

学校の適正配置にあたっては、教育委員会のみならず、市長部局の各種政策との調整が不可欠であることから、整合性が保たれるよう進めます。

(5) 児童生徒の通学上の利便性並びに安全性の確保

統合にともない、遠距離通学者となる児童生徒の利便性向上を図るとともに、安全確保のためにスクールバスの効率的な運行が必要です。運行経路については、教育委員会、学校及び利用者間で十分に協議し、児童生徒の通学に支障が生じないようにします。

(6) 学校施設の利活用

学校統合にともなって、廃校になる学校の施設や敷地については、有効活用のあり方や、地域との協議で示された意見、提言等をもとに、当該施設及び地域の状況に応じた利用や処分について検討を行います。

5 計画の期間

本計画は、令和4年度から令和13年度までの10カ年です。

ただし、保護者及び地域住民への住民説明会を進める中で、統合についての早期実施もしくは延期などの意見要望等が強く出された場合や児童生徒数の推移等の状況をみながら、必要に応じて計画の見直しを行います。

参考資料

1 西根中学校、西根第一中学校及び松尾中学校の状況

(1) 生徒数（単位：人）、学級数、築年数 【（ ）内は学級数を表す。】

※ 令和10年度又は令和13年度に統合するというものではなく、あくまでも参考として示しています。

中学校名	生徒数・学級数・築年数					
	R 4	R 10	生徒数 増減率	築年数	統合した場合	
					R 10	R 13
西 根	234 (9)	208 (7)	△11.1%	56 年	375 (12)	338 (12)
西根第一	78 (3)	77 (3)	△1.3%	60 年		
松 尾	89 (3)	90 (3)	1.1%	33 年		
合計	401 (15)	375 (13)	△6.5%			

(2) 学年別の生徒数（単位：人）、学級数の推移

中学校名	項目	R 4				R 10				R 13			
		1 年	2 年	3 年	合 計	1 年	2 年	3 年	合 計	1 年	2 年	3 年	合 計
西 根	生徒数	75	72	87	234	80	70	58	208	66	64	73	203
	学級数	3	3	3	9	3	2	2	7	2	2	3	7
西根第一	生徒数	20	34	24	78	21	35	21	77	27	24	23	74
	学級数	1	1	1	3	1	1	1	3	1	1	1	3
松 尾	生徒数	34	25	30	89	32	23	35	90	16	22	23	61
	学級数	1	1	1	3	1	1	1	3	1	1	1	3
合計	生徒数	129	131	141	401	133	128	114	375	109	110	119	338
	学級数	5	5	5	15	5	4	4	13	4	4	5	13

2 大更小学校、田頭小学校及び平笠小学校の状況

(1) 児童数（単位：人）、学級数、築年数 【（ ）内は学級数を表す】

小学校名	児童数・学級数・築年数			
	R 4	R 10	児童数 増減率	築年数
大 更	358 (12)	327 (12)	△8.7%	40年
田 頭	48 (<u>5</u>)	37 (<u>4</u>)	△22.9%	32年
平 笠	36 (<u>4</u>)	22 (<u>3</u>)	△38.9%	37年
合計	442 (21)	386 (19)	△12.7%	

(2) 学年別の児童数（単位：人）、学級数の推移

小学校名	項目	R 4						
		1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計
大 更	児童数	66	57	46	69	63	57	358
	学級数	2	2	2	2	2	2	12
田 頭	児童数	9	9	2	11	10	7	48
	学級数	1	1	<u>1</u>		1	1	<u>5</u>
平 笠	児童数	5	4	10	3	9	5	36
	学級数	1	1	<u>1</u>		<u>1</u>		<u>4</u>
合計	児童数	80	70	58	83	82	69	442
	学級数							21

小学校名	項目	R 10						
		1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計
大 更	児童数	58	45	56	57	50	61	327
	学級数	2	2	2	2	2	2	12
田 頭	児童数	4	10	5	6	7	5	37
	学級数	1	<u>1</u>		<u>1</u>		1	<u>4</u>
平 笠	児童数	1	1	3	3	7	7	22
	学級数	<u>1</u>		<u>1</u>		<u>1</u>		<u>3</u>
合計	児童数	63	56	64	66	64	73	386
	学級数							19

3 平舘小学校及び寺田小学校の状況

(1) 児童数（単位：人）、学級数、築年数 【（ ）内は学級数を表す】

小学校名	児童数・学級数・築年数			
	R 4	R 10	児童数 増減率	築年数
平 舘	96 (6)	95 (6)	△1.0%	42年
寺 田	54 (<u>5</u>)	26 (<u>3</u>)	△51.9%	36年
合計	150 (11)	121 (9)	△19.3%	

(2) 学年別の児童数（単位：人）、学級数の推移

小学校名	項目	R 4						
		1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計
平 舘	児童数	14	24	13	15	9	21	96
	学級数	1	1	1	1	1	1	6
寺 田	児童数	7	11	8	4	9	15	54
	学級数	1	1	<u>1</u>		1	1	<u>5</u>
合計	児童数	21	35	21	19	18	36	150
	学級数							11

小学校名	項目	R 10						
		1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計
平 舘	児童数	14	9	16	23	17	16	95
	学級数	1	1	1	1	1	1	6
寺 田	児童数	1	4	3	4	7	7	26
	学級数	<u>1</u>		<u>1</u>		<u>1</u>		<u>3</u>
合計	児童数	15	13	19	27	24	23	121
	学級数							9

4 松野小学校、寄木小学校及び柏台小学校の状況

(1) 児童数（単位：人）、学級数、築年数 【（ ）内は学級数を表す】

小学校名	児童数・学級数・築年数			
	R 4	R10	児童数 増減率	築年数
松 野	85 (6)	58 (6)	△31.8%	29年
寄 木	81 (6)	31 (<u>3</u>)	△61.7%	48年
柏 台	37 (<u>3</u>)	16 (<u>3</u>)	△56.8%	27年
合計	203 (15)	105 (12)	△48.3%	

(2) 学年別の児童数（単位：人）、学級数の推移

小学校名	項目	R 4						
		1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計
松 野	児童数	13	10	13	10	21	18	85
	学級数	1	1	1	1	1	1	6
寄 木	児童数	14	11	14	16	11	15	81
	学級数	1	1	1	1	1	1	6
柏 台	児童数	5	2	8	9	5	8	37
	学級数	<u>1</u>		<u>1</u>		<u>1</u>		<u>3</u>
合計	児童数	32	23	35	35	37	41	203
	学級数							15

小学校名	項目	R10						
		1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計
松 野	児童数	7	6	10	9	10	16	58
	学級数	1	1	1	1	1	1	6
寄 木	児童数	5	2	8	5	6	5	31
	学級数	<u>1</u>		<u>1</u>		<u>1</u>		<u>3</u>
柏 台	児童数	2	2	2	2	6	2	16
	学級数	<u>1</u>		<u>1</u>		<u>1</u>		<u>3</u>
合計	児童数	14	10	20	16	22	23	105
	学級数							12

5 安代小学校及び田山小学校の状況

(1) 児童数（単位：人）、学級数、築年数 【（ ）内は学級数を表す】

小学校名	児童数・学級数・築年数			
	R 4	R10	児童数 増減率	築年数
安 代	86 (6)	74 (6)	△14.0%	19年
田 山	24 (<u>3</u>)	17 (<u>3</u>)	△29.2%	50年
計	110 (9)	91 (9)	△17.3%	

(2) 学年別の児童数（単位：人）、学級数の推移

小学校名	項目	R 4						
		1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計
安 代	児童数	15	13	16	16	17	9	86
	学級数	1	1	1	1	1	1	6
田 山	児童数	3	1	10	1	5	4	24
	学級数	<u>1</u>		<u>1</u>		<u>1</u>		<u>3</u>
合計	児童数	18	14	26	17	22	13	110
	学級数							9

小学校名	項目	R10						
		1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計
安 代	児童数	9	13	6	12	16	18	74
	学級数	1	1	1	1	1	1	6
田 山	児童数	3	2	4	2	3	3	17
	学級数	<u>1</u>		<u>1</u>		<u>1</u>		<u>3</u>
合計	児童数	12	15	10	14	19	21	91
	学級数							9

6 安代中学校の状況

(1) 生徒数（単位：人）、学級数、築年数 【（ ）内は学級数を表す。】

中学校名	生徒数・学級数・築年数			
	R 4	R10	生徒数 増減率	築年数
安 代	61 (3)	58 (3)	△4.9%	30年

(2) 学年別の生徒数（単位：人）、学級数の推移

中学校名	項目	R 4				R10				R13			
		1 年	2 年	3 年	合 計	1 年	2 年	3 年	合 計	1 年	2 年	3 年	合 計
安 代	生徒数	17	20	24	61	18	14	26	58	14	19	21	54
	学級数	1	1	1	3	1	1	1	3	1	1	1	3